

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 2月 24日

事業所名 鈴鹿市第2療育センター

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	無回答	工夫している点等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	18					
	2	職員の配置数は適切である	17	1			・子どもがマンツーマンで関われる体制になっている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	16	1	1		・気付いた所は、アイデアを出し合い、その都度改善する。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	10	4	3	1	・気付いた所は、アイデアを出し合い、その都度改善する。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	18				・広報紙で外部へ発信。	・保護者様からの事業所評価記載のご意見について、職員間で共有・協議し、業務改善につなげています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	17			1		・法人ホームページ内に自己評価の結果を掲載して公開しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	6		5	・外部評価未実施。	・第三者における外部評価を現在実施していないため、今後実施に向けて検討していきます。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	16	1	1		・全ての職員が職員研修を受講する機会が与えられている。	・新型コロナの影響で、研修の機会が減る中、リモートを活用しながら、職員研修機会の確保に努めていきます。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	18					
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12	4	1	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	17	1				
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	17	1			・話し合いを行っている。	・活動プログラムについて、今後も職員間で定期的に協議を行い、固定化にしないよう努めていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	9	2	3		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	18					
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	18					
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	18				・引継ぎノートを使用し、反省と反省を生かせるように話し合っている。	・支援終了後に必ず職員間で打合せを行い、気付きや情報共有をしています。	
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	18					・日々の支援に関して、記録をとることを職員間で徹底していきます。	

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	無回答	工夫している点等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	18					・定期的にモニタリングを行うことを職員間で徹底していきます。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	13	1	1	3		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	18					
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	12	4		2		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	9	3		6	・これまで受入れがない。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	11	6		1		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	10	5	1	2	・その年齢までの児童を受け入れていない。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14	2	1	1		・他の児童発達支援センターや事業所との連携について、県障害児通園施設等連絡協議会・市内自立支援協議会（相談部会）・障害児通所支援事業所担当者連絡会）に参画して、情報共有・意見交換や連携して研修会の開催をしています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	15		1		
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	12	4		2		・自立支援協議会（相談部会）・障害児通所支援事業所担当者連絡会）に定期的に参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	15	1	1	1		
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	7	9	1	1		
	保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	16	1		1	
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	18					
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	12		1	・保護者会等はないが、保護者同士が話せる環境作りができるよう心掛けている。	
33		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	16		1	1		・苦情の際、随時、丁寧に保護者様より聞き取りを行っています。その後、職員間で協議し、苦情解決に努めています。
34		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	4		2		・今年度から、保護者向けの広報紙を発行（メール配信を活用）しています。

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	無回答	工夫している点等	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35	個人情報に十分注意している	17	1				・個人情報に関する資料は、文書棚に入れ、毎日施錠し、個人情報の扱いに注意しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	17			1		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	10	1	2		・コロナ禍における地域連携として、地域向けの情報発信(SNS・広報紙等の活用)をしていく予定です。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	14	3	1			・新型コロナ対応マニュアル・緊急時対応マニュアルについて策定済み。今後、定期的に見直しをしていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	4	1		・児童発達支援で定期的に訓練を行っている。	・センターとして、定期的(年2回)に実施しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	3	3	2	・今年度の職員研修として虐待防止をテーマに行っていないが、ケースを話し合う場はある。 ・まだ研修機会がない。防止には努めている。	・虐待防止研修会に職員が参加しました。次年度以降も研修を受講していきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	5	2	4		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	5	1			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	15	2	1			・ヒヤリハットをあげるだけでなく、職員会議で事例を共有して、再発防止に努めています。